

東京藝術大学美術学部 | 彫刻科

DEPARTMENT OF SCULPTURE, TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS

2024



東京藝術大学

SCULPTURE



はじめに

INTRODUCTION

130年以上前、東京美術学校が設置された時から、この場所ではひたすら「彫刻とは何か?」を日々問い続けてきました。変化し続ける社会情勢や地球環境に翻弄されながら、私たちの表現が変わらず導かれているのはこの問いとの接続です。原始から現代までの射程で彫刻を考察しながら、社会と彫刻を結び、伝統を継承し、革新を生み出す存在の出現を待っています。果たして彫刻という芸術に携わることが、私たちの未来や社会にとって有効であるのか、これから彫刻表現の可能性を一緒に探求しましょう。

沿革

OVERVIEW

彫刻科の歴史は、1887(明治20)年、専修科に彫刻科(木彫)が置かれたことに始まります。その後、1899(明治32)年に塑造科が増設され、1949(昭和24)年、学制改革により東京藝術大学となると改めて彫刻科として再出発しました。

現在の上野校地の彫刻棟は1971(昭和46)年に施工され、1977(昭和52)年には博士後期課程を開設。現在、大学院生の一部は取手校地にて制作活動を展開しています。

彫刻科では、幅広い造形の研究に重点をおき、過去の美術の歴史や日本美術の伝統を踏まえながら世界に視野を広げ将来の美術を展望できるような豊かな感性を持つ人材の養成が重要であると考えています。また、将来作家として独創性あふれる自由な創作活動が行え、美術にかかわる諸分野での指導的役割が果たせるような人材の養成に努めています。

アドミッションポリシー

ADMISSION POLICY

〈学部〉現代の新しい感性と彫刻の創造に資する多様な能力の人材確保のため、入学者選抜方針として造形力、構成力、表現力など美術全般の基礎能力、及び彫刻表現能力の考査を行い、学力試験の結果も含め幅広く総合的に判断し、感性豊かな人材を求めています。

〈大学院〉創造、表現、研究能力を養い、さらには自立して創作、研究活動を行うに必要な能力を備えた彫刻家、研究者の育成を目指しています。学部段階で修得した基礎能力や技術を基に、より専門的な彫刻表現の追求を志す人材を求めています。

〈国際交流〉国際交流協定校を中心にアジア諸国、西欧諸国との交流を積極的に実施しています。学生の海外留学に対して支援を行うと共に、毎年数名の留学生、研究員を受け入れています。

カリキュラムポリシー

CURRICULUM POLICY

〈学部〉基礎的な造形技術を習得し発展させながら、既成の領域にとらわれることなく、それぞれの学生の資質を生かす創作研究を行います。古美術研修や彫刻論などの講義を通し、豊かな教養を身につけ、現代における彫刻のありかたを探求します。最終学年には彫刻作品を制作し、卒業制作展で公開します。

〈修士〉彫刻表現を通して、広く社会に貢献しようとする高い志を持つ人材を育成します。学部で習得した基礎能力や技術を基に、広い視野から、より積極的、専門的な彫刻の表現、研究を行います。最終学年の修了制作展で成果を公開します。

〈博士〉修士学位取得者がさらに専門性の高い研究を行います。制作、研究、また学内外における発表や地域と連携したプロジェクト等、実践的な研究活動をもとに、彫刻作品、論文を作成します。最終学年に博士審査展にて研究成果を発表します。

指導教員一覧

STAFF

教授・准教授	大竹利絵子 / 今野健太 / 大巻伸嗣 / 小谷元彦 原 真一 / 西尾康之 / 森 淳一
客員教授	青木野枝
テクニカルインストラクター	石井琢郎 / 森 靖 / 浅野井春奈 井田大介 / 井原宏蒨
助教	稲垣 慎
教育研究助手	柿坪満実子 / 柴田真央 / 秋吉 怜 / 齋藤圭一郎 広瀬里美 / 大野 力 / 轟木麻左臣 / 林 岳



1・2年次

CURRICULUM
YEAR 1 & 2

1、2年次では、基礎過程として塑造をはじめ、木・石・テラコッタ・金属と、彫刻において世界的に広く使われてきた素材の扱い方と基礎的な造形法を学びます。2年次後期では自ら素材を選択し、発展させた作品を制作します。



A	A	A
B		C
B	B	B

A. 木彫実習
B. 石彫実習
C. 金属実習

C. 金属実習
D. テラコッタ実習
E. 塑造実習

C	D
C	D
E	E

カリキュラム

3年次

CURRICULUM
YEAR 3

3年次前期は、彫刻表現のコンセプトを学んだり、空間への意識を高めたり、表現の多様性を学びます。後期からは3つの講座と各素材及び専門領域に分かれ、指導教員の元に研究を深めます。また、古美術研究旅行を通して日本彫刻の歴史を体験します。



A	B
A	A
A	C

- A. 概念彫刻Ⅰーレディメイドー
- B. 概念彫刻Ⅱーアクションー
- C. 概念彫刻Ⅲーインスタレーションー

- A. 石彫制作風景
- B. 金属制作風景
- C. 木彫制作風景
- D. 塑造制作風景

A	A	A
B	D	
C	C	D

4年次

CURRICULUM
YEAR 4

4年次ではそれまで学んできた集大成として、学生が主体的にテーマを見つけ卒業制作に取り組み、一般公開となる卒業制作展へ臨みます。



A	B
C	D

- A. 増田充高《HEART BEAT —knuckle head—》素材:樟
- B. 笹部泰生《Noema》素材:樟
- C. 赤尾 智《深い》素材:綿
- D. 岡田 俊《on the road》素材:牛革、木

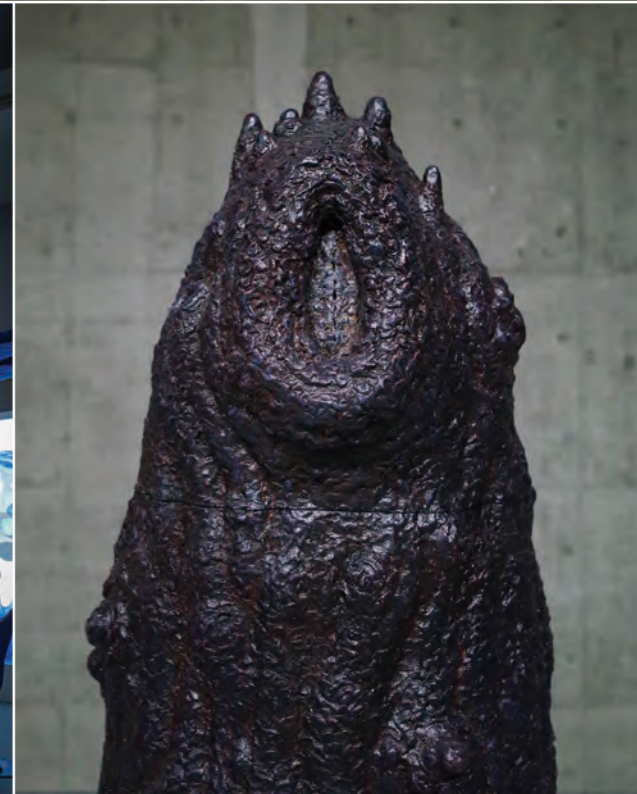
E	F
G	H

- E. 中垣百恵《Siren》素材:スタイロフォーム、モルタル、石、タイル
- F. 山田 歩《macrocosmos-microcosmos》素材:樟
- G. 小野 陸《anthem》素材:パフォーマンス
- H. 寺田博亮《fullmoon may fall》素材:ABSレジン、アルミフレーム、モーター

修士課程

CURRICULUM
POSTGRADUATE

大学院修士課程では、より集中して専門的な創作研究をすることができます。
修了制作展では大学美術館・彫刻棟を会場として、より専門性の高い作品発表を行います。



A	B
C	D
	E

- A. 本岡景太《Detach and Adhere》素材:紙、静電ビニル系樹脂、木
- B. 白井雪音《Bon voyage》素材:大理石
- C. 川崎りら《人間ごっこ》素材:楠
- D. 陳 昱如《裏返った眼から見た世界》素材:テラコッタ、岩絵具
- E. 堀内マキコ《mother, father, sister, and I.》素材:ジェスモナイト、発泡ポリスチレン、アクリル絵具、布

- F. 齋藤圭一郎《FRAGILE_(No.1)》素材:映像、木材
- G. 小嶋 樹《ventifact "bone"》素材:鉄
- H. 柴田まお《Blue pledge》素材:アルミ複合版、ブルーシート、ファー、カメラ、映像
- I. 広瀬里美《朝はまだ遠く》素材:テラコッタ、油彩

F	G
H	I

彫刻科の設備

FACILITIES
DEPARTMENT OF
SCULPTURE

彫刻科には伝統的に扱われてきた素材を専門的に扱うための研究室と設備があり、各研究室教員の指導のもと、学生が自由に、かつ主体的に作品制作に臨むことができます。また、取手校地では、主に大学院生以上の学生が制作し、より高度で専門的な加工を可能とする共通工房を使用することができます。

石彫
STONE



1. 石彫実習室 2. フォークリフト 3. 竈(ふいご)

木彫
WOOD



1. 木彫実習室 2. バンドソー、自動カンナ盤ほか 3. 大鋸



1. シャーリング 2. フライス盤 3. 金属実習室



1. 窯 2. ポリ取り、塗装室 3. 3階アトリエ



金属
METAL

塑造
CLAY

取手校地
TORIDE



1. 取手石材工房 2. 石材切断用丸ノコ 3. 取手共通工房外観



その他の彫刻科による活動

1997

企画展示

EXTRACURRICULAR ACTIVITIES: EXHIBITIONS

彫刻科や研究室の企画する展覧会やアートプロジェクトも行われてきました。近年では、大学院生が主体となって企画するものもあり、より社会と接続し制作・研究を深めることができる機会となっています。企画展は1997年より東京藝術大学大学美術館陳列館にて、彫刻科が企画している彫刻展です。彫刻科教員・スタッフ他、学外の招待作家も出品します。

企画展示 | 展示概要一覧

第1回	空間の変容 —彫刻のポテンシャル—
会期	1997年11月10日(月)–11月28日(金)
企画	林 武史
出展作家	小谷元彦 / 棚田康司 / 虎尾 裕 / 林 武史 / 深井 隆 / 森 淳一
第2回	彫刻 —具象表現の解体と構築—
会期	1999年10月21日(木)–11月10日(日)
企画	北郷 悟
出展作家	磯崎有輔 / 大巻伸嗣 / 北郷 悟 / 黒川弘毅 / 棚田康司 / 津田亜紀子 / 鳥原正敏 / 藤田隆康 / 舟越 桂 / 三沢厚彦
第3回	垂直の時間 彫刻 —過去・現在・未来—
会期	2001年10月11日(木)–10月28日(日)
企画	深井 隆
出展作家	磯崎有輔 / 岡田晃典 / 清水 淳 / 須田悦弘 / 澄川喜一 / 高島啓竹内紋子 / 奈良美智 / 深井 隆 / 三沢厚彦 / 米林雄一
第4回	彫刻の身体
会期	2003年7月1日(火)–7月21日(月・祝)
企画	林 武史
出展作家	林 武史 / 河合勇作 / 棚田康司 / 森 淳一 / 原 真一 / 市川武史 / 渡辺英司 + 高木 哲
第5回	スキノデリック —彫刻の表層—
会期	2006年1月6日(金)–1月22日(日)
企画	北郷 悟
出展作家	伊藤 誠 / 奥田真澄 / 北郷 悟 / 清水 淳 / 高見直宏 / 塚本悦雄 / 中村哲也 / 藤原彩人 / 吉賀 伸 / 古川 聖
第6回	物語の彫刻
会期	2007年11月16日(金)–12月2日(日)
企画	深井 隆
出展作家	一井弘和 / 大竹利絵子 / 小谷元彦 / 小俣英彦 / 小泉俊己 / 清水 淳 / 滝上 優 / 竹内智美 / 田中圭介 / 棚田康司 / 津田亜紀子 / 原 真一 / 深井 隆
第7回	彫刻 —労働と不意打ち—
会期	2009年8月8日(土)–8月23日(日)
企画	原 真一
出展作家	大竹利絵子 / 小俣英彦 / 今野健太 / 下川慎六 / 西尾康之 / 原 真一 / 深谷直之 / 森 靖
特別企画	彫刻の時間 —継承と展開—
会期	2011年10月7日(金)–11月6日(日)
企画	深井 隆
出展作家	〈近代以前〉快慶 / 肥後别当定慶 / 円空 / 正直 / 舟月 / 森川杜園 〈近代〉旭 玉山 / 高村光雲 / 竹内久一 / 山田鬼斎 / 高村光太郎 / 荻原礪山 / 朝倉文夫 / 石川光明 / 中原悌二郎 / 佐藤朝山 / 石井鶴三 / 橋本平八 / 平櫛田中 〈現代〉澄川喜一 / 手塚登久夫 / 山本正道 / 米林雄一 / 木戸 修 / 深井 隆 / 北郷 悟 / 林 武史 / 原 真一 / 森 淳一 / 大巻伸嗣 / 増井岳人

第8回	物質と彫刻 —近代のアポリアと形見なるもの—
会期	2013年4月2日(火)–4月21日(日)
企画	林 武史
出展作家	角田 優 / 佐々木速人 / 名倉達了 / 名和晃平 / 袴田京太郎 / 林 武史 / 原口典之 / 深井 隆 / Mrs. Yuki / 宮原嵩広 / 森 靖

第9回	彫刻 —気概と意外—
会期	2016年9月28日(水)–10月10日(月・祝)
企画	原 真一
出展作家	池島康輔 / 井田大介 / 伊東敏光 / 井原宏蒨 / 大竹利絵子 / 今野健太 / 高見直宏 / 原 真一

第10回	時間 / 彫刻 —時をかけるかたち—
会期	2019年5月20日(月)–6月2日(日)
企画	林 武史
出展作家	大巻伸嗣 / 大森記詩 / 川島大幸 / 北山翔一 / 小塚照己 / 篠田太郎 / 鈴木弦人 / 富井大裕 / 林 武史

第11回	PUBLIC DEVICE —彫刻の象徴性と恒久性—
会期	2020年12月11日(金)–12月25日(金)
企画	小谷元彦 / 森 淳一
キュレーター	小谷元彦
共同キュレーター	小田原のどか
展覧会サポート	松下徹 (サイドコア)
出展作家	会田 誠 / 青木野枝 / 井田大介 / 大森記詩 / 小谷元彦 / 小田原のどか / 笠原恵実子 / カタルシスの岸辺 / サイドコア / 島田清夏 / 高嶺 格 / 椿 昇 / 戸谷成雄 / 豊嶋康子 / 西野 達 / 林 千歩 / 森 淳一 / 菊池一雄 / 北村西望 / 本郷 新



東京藝術大学大学美術館陳列館

1 谷口 笙子 さん

彫刻科 学部4年生 (2024年現在)



《ホワイト・ホール》素材：楠

入学動機

物心着く前から絵を描いたり工作したり、一人で遊ぶことに没頭しがちでした。生物の骨格や構造に興味があり、図鑑を眺めては油粘土で自分の妄想の生物を作っていました。

その後相変わらず一人で過ごす時間は多かったものの、徐々に読書やゲーム、アニメ、インターネットに熱中していき、自分の手で遊んで遊ぶ事は減っていきました。ただサブカルチャーを浴び共通言語を得た結果、人とのコミュニケーションをより面白く感じられるようになるきっかけとなり、作品の作り手に対する関心や憧れを持つようになりました。

作り手になりたい思いで進学した地元の

美術系高校では彫刻と迷い油画を専攻し、そのまま卒業しました。並行して、長年通っていた画塾の縁で関東の予備校の彫刻科講習会生として長期休みの度に参加するようになりまし。そこで初めて彫刻を含む美術の文脈や、それを取り巻く共同体と環境に意識的に触れました。多浪するなど入学に時間がかかったものの、結果的に技術的な事は

もちろん、精神的に過程から得るものは多かったです。

入った直後、世の中がパンデミック一色となり、初めて登校できたのは7月の講評。その時しか出来ない事をやらなければと思いつつも、私はそれらの時間を上手くサバイブ出来たとは言えませんでした。目まぐるしく変わっていく環境と自分の精神に翻弄され続けつつも、その時々自分の作品から後々むしろ気付きを与えられたり、当時同じ状況に置かれた同級生や教員の方、近しい人々に力を貰ったお陰で制作を続けられました。

現在の活動

現在は、木彫などのカービングを中心に、他

素材や既製品、音声や映像を組み合わせたミクストメディアの作品を作ることが多いです。ゴムの様な柔らかく頼りない質感や、量産品故のチープさや空虚さのある恒久性の少ないモチーフの状態を固定させ、留めるように造形し、現実の空間にある種の違和感をもたらしたり、機械音声やシンセサイザーなどの音を使用し、定位の効果を用いて現実と別層の空間を発生させることで彫刻を作る試みを行っています。

ものや機械を通して希釈された他者の存在と触れ合い、孤独のままに癒され、やがてまた社会と接続しに帰っていくような感覚を鑑賞する方々と共有できる事を願いながら制作しています。

以前から自らがいわゆる彫刻行為をしているという実感がいまも持てないままで、第三者的認識なのは変わらずですが、そのような微妙な立場故に見える、作れるものもあると信じています。彫刻というメディアの内側と外側、人との関係性、暴力と遊戯のバランスに秘められた倫理的な可能性をテーマに、既にありながらも見え難い側面を、作品を通して頭に来ないかと考え活動しています。

近年の主な就職先

株式会社カプコン
株式会社京都科学
株式会社サイバーエージェント
株式会社スクウェア・エニックス
株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント

2 菊地 寅祐 さん

彫刻専攻 修士2年生 (2024年現在)



入学動機

私は両親が陶芸を営んでおり、小さい頃から粘土に触れる生活をしていました。それは私が彫刻を作る大きなきっかけになったとは思いますが、同時に自分の将来を見据えた時、好きなことを続けることの不自由さ、不安定な感覚も感じていたことを覚えています。

小学生になったと同時に粘土に触れることは無くなり、親戚から送られてきた映画を観るようになりました。SF映画、サスペンスもの、母親宛に送られてきた韓国ドラマや知らない歌手のライブ映像までもひたすら流していました。ただ、それでも美術には興味があって、その意志をかき消すように映画を観続けていたのだと感じます。

その結果か、高校3年になっても進路が全く決まらず、好きだった美術のことを考えるようになりました。そこで夏休みに思い切って東京の美術予備校へ行ってみました。当時はデザイン科志望だったのですが体格が良かったことから講師の方に彫刻科志望だと勘違いされ、アトリエへ案内されました。—粘土槽の配置、モノクロに近い色の少ない風景、匂い、アトリエの湿った空気、誰もが盲進的に彫刻を作る様子を見た時、私は

強烈な既視感を覚えました。「自分は来るべくしてここに来たのだ。」そう確信し、そのまま彫刻科を志望することとなりました。

今思えば、そのような体験は幼少期から粘土に触っていたためではないのですが、その時の霧が晴れたような感覚がいつしか自分の制作のエネルギーとなって、今日まで彫刻を制作しています。

現在の活動

私の作品の基盤は、彫刻という立体物に再び感動する感覚を浸透させることです。最近感動したものは何かと聞かれたら、ネットフリックスで見た映画の話になることがあります。現代社会において感動することのほとんどは画面上にしか存在しません。そこで私はコンセプトとして映画と彫刻を組み合わせた作品を展開しています。映画は彫刻と比べて多くの人々が慣れ親しみ、感動したことのある芸術であるためです。

小さい頃から田舎暮らしだったため、親戚から送られてくる映画を見て生活をしていました。ただ、映画

は物語であり、意図的に感動を作り出せる分野です。そこで私は次第に画面上ではなく目の前の光景に感動し、ただひたすら圧倒されたいという願望が芽生え、今日まで彫刻を制作してきました。

今の社会はスマートフォンが主流で、彫刻のようなアナログな文化は必要とされなくなってきているのが現状です。しかし、あえてその逆境のなかで、慣れ親しんだ映画の没入するような感覚が立体物として目の前に存在することで、当たり前のように見ていた待ち合わせ場所の彫刻までもが全く別のもの、異物に見える瞬間が訪れるだろうと私は考えます。



《BUG》素材：楠木、銅材

卒業後の進路

CAREERS

学部卒業生の多くは、より専門的な研究を続けるために大学院美術研究科へ進学します。中には修士課程を修了後さらに、博士後期課程へ進む者もいます。また、彫刻科での経験を生かし一般企業に就職する学生も増えています。国公立・私立大学、高等学校・中学校の教員も主な進路としてあげられます。

教育機関

（国立大学）
愛知県立芸術大学
秋田公立美術大学
沖縄県立芸術大学
金沢美術工芸大学
静岡大学
都留文化大学

富山大学
広島市立大学
三重大学 ほか
（私立大学）
京都芸術大学
女子美術大学
多摩美術大学
東京造形大学
武蔵野美術大学 ほか

五十音順

編集・発行：東京藝術大学美術学部 彫刻科

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

パンフレットに掲載されている情報は2024年5月のものです。

図版および文章の無断転載を禁じます。

©2024 Department of Sculpture, Tokyo University of the Arts

